

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成27年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全社的な理念の他に、事業所独自のコンセプトを設定し、(せせらぎ聞こえる紅葉の里・おだ あなたの、私の第二のふるさと)実現のために職員一人ひとりが頑張り目標を決め定期的に振り返りながら支援に当たっています。地域との繋がりがや認知症の理解を深めていただくために認知症カフェ(カフェもみじ)を定期的に開催し、ホームに足を運んでいただき、認知症、及びホームの入所者、ホームの役割等に理解を示していただけるよう努めています。同様に幼稚園児の訪問を再開していただけるよう計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して6年目を迎える事業所は、静かな山間部にあり季節を間近に感じることができる。職員は「せせらぎ聞こえる紅葉の里・おだ、あなたの第二のふるさと」という理念を大切に、利用者本位のケアに努めている。利用者がしっかりご飯を食べ笑顔で楽しく過ごせるよう、意欲的に支援している。認知症の周辺症状に対して、「見る・話す・触れる」などコミュニケーション技法を取り入れ、夜型になっていた利用者が職員の関わり方で改善したり、唾はきをする利用者がみんなと関わりを持ち笑顔が見られるようになるなど、職員全員で取り組んでいる。また、今年度から開始した「認知症カフェ」の取組みは、定期的に地区の人々が事業所に足を運び、利用者との交流をする機会となっている。地域で唯一のグループホームとして、地域に根ざした活動に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム紅葉の里・おだ

(ユニット名) いちよう

記入者(管理者)

氏 名 谷岡 亜由利

評価完了日 平成27 年 10月 27日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は施設利用者に対する介護サービスの原点と考え、職員や訪問者が常に目に付くところに掲示し意識して仕事に取り組んでいる。また、事業所独自のコンセプトを作成しそれも掲示し同様にコンセプトの実現に向けての取り組みを行っている。 (外部評価) 法人全体の理念を基に開設時に職員全員で話し合い、「せせらぎ聞こえる紅葉の里・おだ、あなたの第二のふるさと」という事業所独自の理念を作成している。11月より理念にそって「利用者の目を見つめてしっかり関わる。」という共通目標を立て、共有して実践できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(秋祭り、グリーンデイ)に参加し神輿や獅子舞の来訪もあり楽しんでいただいている。また地域のボランティアの方々に踊りや三味線、定期的な読み聞かせ等行っただき、地域の方との交流を行っている。12月より幼稚園児の訪問を定期的に行ってもらう計画がある。 (外部評価) 地域の秋祭りには事業所に神輿が入り、利用者は一緒に祭りに参加したり、地区のボランティアの方による三味線、ダンス、読み聞かせなどを楽しみにしている。また、職員は利用者と共に、地区一勢に行われる清掃や草引きを行うグリーンデイに参加している。10月からは認知症カフェ「紅葉会」を開催し、方言や懐かしい遊びの話しが出るなど地域の人々と交流している。12月には幼稚園児の来所予定があり、利用者は雑巾を作りプレゼントする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会主催の認知症講演会を毎年開催している。今年も6月に行い多くの方々にご出席いただきました。認知症はその人達についての理解や支援をいただくよう努めています。またホームで認知症カフェを開催しGHについて知っていただく機会を設けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会を設け現状報告、運営に関しての問題を話し合っ ている。 会議内容は職員会で伝えたり会議録をいつでも見 れるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、役場職員、家族、区長、長寿 会役員、民生委員の参加を得て、グループホーム対抗運動 会、認知症講演会、家族会などに合わせて開催している。会 議の案内は「もみじ便り」に掲載したり、電話連絡で参加を 呼びかけている。会議の議事録は玄関に置き、誰でも閲覧で きるようにしている。	会議案内の工夫や議題の検討を行うと共に参加しやす い曜日と時間帯の調整を行い、多方面からの参加を得 て積極的な意見交換ができることを望む。職員も交代 で参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告を 行い、そこでの意見をサービス向上に活かす取組みに 期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 日頃より運営やサービスに対して相談、アドバイスを受けるこ とができる。 運営推進会議には必ず出席していただき意見 交換や新しい情報等いただけている。また、内子町グループ ホーム連絡会にも参加していただいている。	
			(外部評価) 役場職員は運営推進会議に毎回参加して、情報交換を行うほ か、介護保険制度についての相談に役場に出向く等日常的に 相談できる関係ができています。また、月1回会場を事業所が 持ち回りで開催している「内子町グループホーム連絡会」に 参加して、他事業所との情報交換をしている。また半年に1 回介護相談員の訪問があり、事業所の取組みについてアドバ イスを受けたり、利用者と会話をして報告を受けるなど協力 関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束をしないケアに取り組んでいる。 基本玄関の施錠は行っ ておらず利用者は自由に出入りできるようになっている。し かしながら防犯のために夜間帯は施錠を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束に加えて 「じっとしとってよ」「すわっとってよ」などの言葉の拘束 についても職員間で話し合い、気になる職員は個別に指導を して職員全員が正しく理解して拘束をしないケアに努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年間の職員勉強会にも組んで日頃から職員同士でも情報を共有し、さまざまな虐待について見過ごされることのない様注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用されている方はいないが、研修にて基本的な内容の理解は少しはしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所退所による契約に関しては時間を十分にとり説明し不安や疑問についての確認を行い説明納得いただくように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が訪問されたり、電話連絡の際は必ずご利用者の様子を伝え意見や要望を確認するようにしており、内容は職員に伝わるようにしている。(口頭が多い) また、玄関に意見箱を設置しており意見や希望をいただけるようにしている。 (外部評価) 面会に来た家族に声をかけて利用者の生活の様子を伝えると共に、家族の気になっていることなど話を聞くようにしている。家族会を年に2回開催し、意見や要望を聞く機会としている。また、「ご飯を柔らかくしてほしい」「食事の量が多い」など普段の話の中で出た利用者の意見を大切に受け止めて対応している。入居して間がない利用者は、部屋に何って話を聞くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会で意見や提案を聞き話し合ったり、それ以外でも気軽に意見提案が出せ易い雰囲気としており、意見を反映している。 (外部評価) 職員は毎月の定例会で積極的に意見や提案を出し合い話し合っている。今年1月より管理者が交代しているが「話を聞いて一緒に考えてくれる。」と職員の信頼があり、管理者に直接提案することも多くなっている。また、職員研修を推奨し南予地区の研修に参加したり、町主催の緊急対応の研修に参加している。研修は勤務扱いとし、定例会で伝達講習を行って職員間でレベルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 会社は四つの方針（顧客本位・社員重視・独自能力・社会貢献）を打ち出し職場環境が整えるよう努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全ての職員が研修に参加できるよう予定し、本人が希望する研修には参加してもらっている。参加した研修については他の職員にも伝える機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎月、内子町グループホーム連絡会に出席し情報交換と勉強会や催しを行いサービスの質向上や協力体制にも努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問を行い本人や家族の意思、要望等を聞き不安の軽減に努めるようにしている。安心感を持てただけよう表情や話し方にも注意を払っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 話し易い雰囲気を作れるよう努めている。 家族の思いや不安をしっかりと聞き、不安の軽減に努めながら要望に対しても確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始にあたり本人、家族としっかり話し合い、また居宅担当CMより情報をいただいたりしてどのようなサービスが必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活しているという意識を持ち常に感謝の気持や言葉表すようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や月1回のお便りなどで本人の様子、状態をお伝えしている。 また利用者の状態によっては訪問していただけるよう電話連絡することあり。 また本人の要望で電話することもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人、親戚の訪問がある。 墓参りや、花見等に外出されることもある。 認知症カフェを開いた際には「もう何年も会ってない、話せて良かった。」と来られた方が嬉しそうに話されていた。 訪問された方には本人の様子をお伝えし、また来ていただけるようお願いしている。 (外部評価) 入居時に家族から情報を収集し、馴染みの関係を把握している。家族の送迎で馴染みの美容室を利用したり、墓参りに行くこともある。毎週息子と外出して、入院している夫に面会してから自宅に帰る利用者もいる。知人の面会時はゆっくり話ができるよう配慮したり、利用者の希望に応じて家族宛に手紙やはがきを書く支援をしている。認知症カフェに来た人と久しぶりに話ができるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係を築けるよう、また孤立しないよう様子観察声かけを行い、会話のきっかけになるよ話題を提供したり、作業を手伝っていただいたり和やかな環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームの外でご家族様にお会いすることがあればきちんと挨拶し近況を伺うようにしている。 以前ご利用されていた方の家族には現在推進委員を引き受けていただいています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して本人の思いを把握するように努めている。入所時や更新時状況が変化した時等本人様の思いを確認しミーティング等で話し合い支援に反映している、意思伝達が困難な方場合は表情やしぐさから読み取るように努めている。 (外部評価) 普段の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、その把握に努めている。聞き取った情報は申し送りノートに記載し、職員は内容を確認した上で押印して全員で共有している。意思伝達が困難な利用者はしっかり観察し、返答しやすい声かけの工夫や表情、食欲、しぐさなどから判断し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の事前調査である程度は把握するようにしている。入所後においても日常会話の中からボツリボツリと情報があつたりするので、家族に確認をさせていただくようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり過ごし方を聞き取りだけでなく実際の生活から把握し、本人の生活リズムを大切にしている。 状況の変化があればその都度柔軟に対応しできるかぎり本人の生活が保てるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の生活がよりよくなるために定期的にモニタリングを行い、担当者会議で課題や目標について話しあい計画書を作成している。 家族には事前に訪問時や電話にて意見を確認するようにしている。 (外部評価) 利用者と家族の思いや意向を確認し、介護計画を作成している。初回計画は1か月の仮目標を立てて実施し、担当者会議で見直しをしている。経過記録に介護計画を挟み、常に計画を意識しながらサービスの実施状況を記録している。担当職員は毎月モニタリングを行い、担当者会議に反映させている。家族の要望は面会時や電話を通して聞き取り、介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の気づきや状態を介護記録に記した、連絡ノートや伝言等で情報を共有して、目標の実現に向けて実践し、介護計画書の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態や環境、家族構成により通院等を柔軟に対応している。 家族訪問時の急な外出等などもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月定期的に訪問していただく読み聞かせのボランティアや不定期ではあるが踊りや三味線等のボランティア訪問もある。どちらも外部との交流を楽しんでいただいている。また、認知症カフェの開催で近隣の方の訪問があり、会話等弾み笑顔が沢山見られた。 12月より定期的に幼稚園児の訪問予定が計画されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に本人、家族との話し合いで主治医は今までの医師を希望すればその希望を優先しかかりつけ医と同様、状態を伝え適切な医療が受けれるようにしている。定期的に連携医が往診に来ていただいている。 (外部評価) 在宅時のかかりつけ医を継続して受診することができるが、通院が困難な利用者は、入居時に月3回往診する協力医に変更することが多くなっている。訪問看護ステーションと連携して、週1回の訪問看護と24時間緊急体制が整っており、日常の健康管理や相談ができるので安心感がある。専門科受診は家族の付き添いを基本としているが、場合により職員が同行することもある。受診の際には情報をメモで渡し、受診後の情報は関係者で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 入所者の変化を見逃さないよう職員は気をつけ訪問看護ステーションからの定期的な訪問時に、日々の様子や変化を伝え指示や指導を受けている。何かある時はその都度連絡を行い主治医との連携をとってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報提供票や病院指定用紙にて現状を伝えると共に、家族と一緒に問診にも応じている。入院先の相談員や主治医と連携をとり、家族も交えて情報交換を行い病院との関係を築いている。また退院後の状況についても相談員に報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に方針等説明して意向を確認するが状態変化にて意向も換わるのでその都度話し合いをするようにしている。情報は職員全体が把握できるようにしている。 (外部評価) 看取りについての指針を作成し、利用者や家族の要望にそって支援していく体制がある。現在までに1名の看取りを行った経験がある。転入所する利用者が多いことや元気な利用者が多いことから、看取りまで考えていない家族が多い現状である。今後も職員の勉強会を重ねて受け入れ体制を整え、要望にそって穏やかな最期が迎えらるよう支援に取り組んでいく方針である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に行うようにしている。消防署主催の応急手当や運搬の等の講習会に参加し実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年間2回昼と夜間帯を想定して消防署指導の下避難訓練を実施している。現場における体制や避難方法を確認している。またグループホーム連絡会にて防災対策について勉強会を行っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いの下、火災避難訓練を実施している。事業所の中と外の階段を使用して降下訓練を実施し、布タンカに変更する必要があるなど問題点を明らかにしている。また、定期的な消火設備の点検や緊急連絡網を作成し非常時に備えている。管理者は地域防災訓練に参加することや事業所が地域の避難場所になる可能性についてなど、地域との協力体制を検討中である。	年2回の防災訓練を行い降下訓練を実施しているが、職員全員ができる降下方法の検討や訓練を行うと共に、地域の避難経路や避難場所の確認を行って職員全員に周知徹底するなど、実効性のある訓練となるような取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、特に排泄や入浴時は職員全体で気をつけている。できるだけ同性による介助ができるようにしている。 (外部評価) 排泄介助を行う時は羞恥心に配慮するよう努めている。夜間帯は難しいが、同性介助を希望する利用者には要望にそって実施できるよう努めている。管理者は利用者の情報を外に漏らさないなど、個人情報の保護について意志統一し守秘義務を徹底している。利用者一人ひとりの声かけに気を配り、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを言葉や態度で示していることを見逃さないようにし、自己決定できるような対応を心がけている。誕生日には本人の好きなメニューをリクエストしてもらい取り入れている。入浴時には自分で服を選んでもらうように取組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入所者のその日の状態等により、個々のペースにあった生活リズムで過ごしていただけるよう努めているが、場合により業務が優先してしまう時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一日の始まりの洗面や更衣時、入浴の準備、外出時等本人が衣服を選んだりされている。 また美容院にも出向ききれいにされている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に調理の下ごしらえ（皮取り、カット等）を手伝っていただいたり、季節や行事に応じた食材の使用で話しが弾んだりして楽しい雰囲気の中食事をしていただくようにしている。 毎回食後にお盆を拭いていただいている。 席順は状況を見ながら変えることもある。 定期的な外出でも食事を食べたり、もみじ祭りでも家族とお弁当を食べるなど取組んでいる。 (外部評価) 管理者が献立を立て、食材は週2回野菜や魚の配達を依頼し、肉類は買い物に行っている。利用者の好みを取り入れて季節の野菜をふんだんに使った料理は、医師から血糖値の安定に効果があると評価されている。利用者はごぼうのさがきをしたり、食器を拭くなど職員と一緒に準備や片付けを行っている。誕生日は利用者の好みを取り入れたメニューにし、月2回は食事会をして職員と利用者が一緒に食事をしたり、外食するなどして楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分の摂取量は必ず毎回チェックし一日に必要な摂取量に気をつけている。 また、本人の状態にあった食事形態を工夫し、食べる楽しみを持っていたけるよう気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に一人ひとりの状態にあった方法で口腔ケアを行っている。 週一回義歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを入所当初よりチェックし、本人の行きたいサインを見逃さないようにしてできるだけトイレで排泄することを心がけて支援している。 トイレ排泄時に陰洗を行い気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導してトイレで排泄できるよう支援している。排便がない時はトイレに座ってもらったり、牛乳を飲むなどして自然な排便を促している。歩行不安定で頻回にトイレに行く利用者は夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分や牛乳摂取、適度な運動等々状態にあった方法で行っている。 野菜を多く取り入れるなど工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 好みの温度や時間を状況を見ながら希望に沿うようにしている。 毎日入りたい人もおり、入っていただいているが全ての方の要望には添えていないのが現状。 行事や外出がある時などは本人も疲れており入浴日をずらすことがある。	
			(外部評価) 浴槽は両端に移乗スペースがあり、シャワーキャリー、シャワーチェアー、すべり止めマットを設置している。入浴は週2回を基本とし、希望で毎日入浴することもできる。皮膚掻痒のある利用者には綿手袋を使って石鹸の使用を少なくすることでかゆみが少なくなった。また殺菌作用のある入浴剤を入れることで皮膚がうるおい、浴槽にゆっくりつかることができる入浴を楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活をよく観察し睡眠時間にあった生活パターンを守り、睡眠が十分に取れるよう日中の過ごし方も工夫している。 日中も本人自身が休息できるように声かけしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入所時には処方薬についての情報を職員で共有している、状態に応じ変更が生じた場合も口頭、及び連絡ノート等にて申し送っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や能力を理解し、楽しみやできることを見つけ毎日の生活に張り合いが出るように支援している。洗濯物干し、たたみ、調理下ごしらえ、縫い物、掃除等々12月の幼稚園児訪問のお礼にとお手玉や雑巾などを縫われている。楽しそうに作業されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族や親戚、知人等と外出されることもある。季節ごとに外食を兼ねた外出を行い季節感を味わっていただいている。毎日散歩に出る方もおり地域の方と会話もされている。散歩はできなくても玄関先で日光浴をされたりする方もいます。 (外部評価) 天気の良い日は事業所の周りを散歩し、近所の人が声をかけてくれるなど挨拶を交わしている。不穏になると、一緒に神社にお参りすることで落ち着く利用者もいる。また、行事委員会の担当職員は内子や肱川、久万高原町の道の駅へドライブを計画し、普段行けない場所にも出かけて楽しむことができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望で入所者がお金を持参している方もいらっしゃいます。ホームでお金を預かっている方が殆どですが外出時等自由に使える機会も設けてます。最近ではパンを選び購入されています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば家族や知人に電話をかけられます。携帯電話を持参されている入所者もいます。職員が電話番号だけ押して後は本人が自由に会話されています。また、毎月のお便りの中に娘宛の手紙を書いたり、本人の能力に応じた方法で年賀状を作成し家族に送っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 移動の妨げになるものは置かない様にしており、季節に応じた飾り付けで壁を彩ります。トイレには光触媒消臭機能のフェイググリーンを飾り臭いに気をつけてます。ホールには加湿機能付空気清浄機を設置し、雑菌やウイルスに対応できるようにしています。家具の配置もゆとりを持たせ落着いて過ごせるよう配慮しています。 (外部評価) リビングはオープンキッチンで、椅子席、ソファ席、畳コーナーを設け、木目調で落ち着いた雰囲気があり利用者は好みの場所で穏やかに過ごしている。温度計や湿度計、加湿器、空気清浄器を設置し、光触媒を使った消臭器を設置する等環境整備に配慮している。また、利用者と一緒に役割分担して掃除を行い、清潔感あふれる環境となっている。壁には利用者の作品やもみじの貼り絵、ぬり絵を掲示し季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや畳スペース、テーブル席、玄関ベンチなど入所者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個々の居室は自宅で慣れ親しんだものを持ち込まれており、家族の写真や季節のものを飾るなどして居心地よくしていただいている。 (外部評価) 居室の名札は高さを変えて見やすいように配慮されており、電動ベッドとエアコン、タンス、洗面所が備え付けられている。利用者は使い慣れたカーペットや机、テレビ、籐椅子等を持ち込み、家族の写真や絵手紙、孫が書いた似顔絵、人気演歌歌手のポスターなどを飾ったり、位牌を置いて職員と一緒に毎日本水を供えるなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の名札は廊下から見やすく、視線の位置に入り易く設置している。 トイレ扉は以前は開放して、使用中かどうか分かるようにしていたが、現在は見た目も良くないため閉めている。特にそのことで混乱が起きることはなかった。廊下、浴室、トイレ内には手すりを設けてあり安全に移動ができる。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成27年 10月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所独自のコンセプト「せせらぎ聞こえる紅葉の里・おだ あなたの第二のふるさと」とし、職員一人ひとりが頑張り目標を持ち、またユマニチュードの技術を学びコンセプト実現に向けて取り組んでいる。また地域の方に認知症のこと、事業所のこと等より理解していただくためにホームに気軽にきていただけるよう認知症カフェ(カフェもみじ・月1回)を開いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して6年目を迎える事業所は、静かな山間部にあり季節を間近に感じることができる。職員は「せせらぎ聞こえる紅葉の里・おだ、あなたの第二のふるさと」という理念を大切に、利用者本位のケアに努めている。利用者がしっかりご飯を食べ笑顔で楽しく過ごせるよう、意欲的に支援している。認知症の周辺症状に対して、「見る・話す・触れる」などコミュニケーション技法を取り入れ、夜型になっていた利用者が職員の関わり方で改善したり、唾はきをする利用者がみんなと関わりを持ち笑顔が見られるようになるなど、職員全員で取り組んでいる。また、今年度から開始した「認知症カフェ」の取組みは、定期的に地区の人々が事業所に足を運び、利用者との交流をする機会となっている。地域で唯一のグループホームとして、地域に根ざした活動に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム紅葉の里・おだ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)

氏 名 稲田 かおり

評価完了日 平成27 年 10月 27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自の理念を作り事務所内に掲示、毎日始業前に確認し理念に沿ったケアを実践している。また、ご家族や訪問者にも見ていただけるように玄関に掲示し事業所の取組みを理解していただいている。理念を元に事業所独自のコンセプトも作り「マニチュード」技術を学びながら実現に向けて取り組んでいます。 (外部評価) 法人全体の理念を基に開設時に職員全員で話し合い、「せせらぎ聞こえる紅葉の里・おだ、あなたの第二のふるさと」という事業所独自の理念を作成している。11月より理念にそって「利用者の目を見つめてしっかり関わる。」という共通目標を立て、共有して実践できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元の祭りに参加し神輿や獅子舞に来てもらっている。また恒例の紅葉の里まつりを開催し地域のボランティアの方に参加いただいた。他にも不定期ではあるが踊りや三味線を披露していただいたりもしました。グリーンデイの奉仕活動にも参加しています。 (外部評価) 地域の秋祭りには事業所に神輿が入り、利用者は一緒に祭りに参加したり、地区のボランティアの方による三味線、ダンス、読み聞かせなどを楽しみにしている。また、職員は利用者と共に、地区一勢に行われる清掃や草引きを行うグリーンデイに参加している。10月からは認知症カフェ「紅葉会」を開催し、方言や懐かしい遊びの話しが出るなど地域の人々と交流している。12月には幼稚園児の来所予定があり、利用者は雑巾を作りプレゼントする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民に理解を求める目的で内子町グループホーム連絡会主催の認知症講演会を開き多くの地域の方々に参加いただきました。また、認知症カフェを主催し認知症のことを理解いただけるよう取り組んでいます。初回は8名地域の方に来て頂く事ができ居室の見学やご利用者様との会話をもっていただきました。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を開催し、推進委員やご家族様の意見や要望を 改善課題としている。また、家族会や紅葉の里まつりにも 推進委員さんに参加いただき共に共有し協力体制により取 組むようにしている。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、役場職員、家族、区長、長寿 会役員、民生委員の参加を得て、グループホーム対抗運動 会、認知症講演会、家族会などに合わせて開催している。会 議の案内は「もみじ便り」に掲載したり、電話連絡で参加を 呼びかけている。会議の議事録は玄関に置き、誰でも閲覧で きるようにしている。	会議案内の工夫や議題の検討を行うと共に参加しやす い曜日と時間帯の調整を行い、多方面からの参加を得 て積極的な意見交換ができることを望む。職員も交代 で参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告を 行い、そこでの意見をサービス向上に活かす取組みに 期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 管理者は事業所の現状を報告したり、運営やサービスにおいて 生じる課題や疑問については事業所で抱え込まず相談しなが ら協力関係を築くようにしている。内子町グループホーム 連絡会などにも参加いただき、行政からの話も聞ける体制と なっている。 (外部評価) 役場職員は運営推進会議に毎回参加して、情報交換を行うほ か、介護保険制度についての相談に役場に出向く等日常的に 相談できる関係ができている。また、月1回会場を事業所が 持ち回りで開催している「内子町グループホーム連絡会」に 参加して、他事業所との情報交換をしている。また半年に1 回介護相談員の訪問があり、事業所の取組みについてアドバ イスを受けたり、利用者と会話をして報告を受けるなど協力 関係ができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が身体拘束はしないことを基本として取り組んでい る。自ら外出されるご利用者には見守り所在の確認を行 い、早朝、夜間等職員の少ない時間帯は玄関のみ施錠してい る。(防犯の意味もあるため) (外部評価) 身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束に加えて 「じっとしとってよ」「すわっとってよ」などの言葉の拘束 についても職員間で話し合い、気になる職員は個別に指導を して職員全員が正しく理解して拘束をしないケアに努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内での勉強会を行い正しく理解し虐待のないケアを行っている。 日常的な介護サービスでの適切な対応のあり方を折に触れて話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は制度を利用されている方はいないものの、制度の認識等周知している。 地域等で行われる研修会にも参加して認識を高めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を交わす時に事業所の取組やサービスに対して状況、考え方などを説明している。 その際不安に思っていることを確認し、ご理解納得いただけるよう説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には面会時や電話等で意見や要望を聞くようにしている。 気軽に意見や苦情を出していただけるよう玄関に意見箱を設置している。 また、行事に参加していただき気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っている。 年末の家族会では一年間の施設の状況やヒヤリハット、事故等内容について報告をしている。 (外部評価) 面会に来た家族に声をかけて利用者の生活の様子を伝えると共に、家族の気になっていることなど話を聞くようにしている。家族会を年に2回開催し、意見や要望を聞く機会としている。また、「ご飯を柔らかくしてほしい」「食事の量が多い」など普段の話の中で出た利用者の意見を大切に受け止めて対応している。入居して間がない利用者は、部屋に何って話を聞くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のミーティング、職員会議、勉強会等で意見や提案また、気づいたことを発言できるようにしている。 管理者は職員の意見や要望を聞き、良いものは運営に反映している。 (外部評価) 職員は毎月の定例会で積極的に意見や提案を出し合い話し合っている。今年1月より管理者が交代しているが「話を聞いて一緒に考えてくれる。」と職員の信頼があり、管理者に直接提案することも多くなっている。また、職員研修を推奨し南予地区の研修に参加したり、町主催の緊急対応の研修に参加している。研修は勤務扱いとし、定例会で伝達講習を行って職員間でレベルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 会社は4つの方針（顧客本位・社員重視・独自能力・社会貢献）を打ち出し職場環境が整える努力をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) すべての職員が研修に参加できるよう予定し、本人が希望する研修には参加してもらっている。 また事業所内でも研修に参加したスタッフが他のスタッフに研修内容を伝える場を持ち双方で理解でる取組としている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会に毎月参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前において事前調査で本人の住まいの状況や困っていることなど十分に把握し、またホームにも見学に来ていただき十分に納得して入居していただけるよう努めている。 センター方式のアセスメントを活用し本人の要望等を理解して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前にご家族の思いや考家族の状況を把握するとともに、家族のニーズを総合的に把握しながら詳しくアセスメントができるように家族にも協力してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に入居のみを前提にするのではなく、担当のケアマネジャーやサービス担当者等と話し合いながら、どのようなサービスが適しているか見極め対応するよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人一人の好き嫌いを把握し意向を確認しながら日常生活を送れるように工夫している。また、一人一人の不安や苦しみは共感し分かち合える関係作りを行っている。洗濯物たたみやシーツ交換、調理等一緒に作業を行い冗談を言って笑える関係がある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会、行事等での情報交換を行い家族の意向や考えに注意を払いながら共に本人を支えていく姿勢をとっている。毎月のお便りには生活の出来事や写真も記載している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔馴染みの友人や近隣の方との交流が持てるようにしている。手紙の返事を書いて出すなどの支援に努めている。 (外部評価) 入居時に家族から情報を収集し、馴染みの関係を把握している。家族の送迎で馴染みの美容室を利用したり、墓参りに行くこともある。毎週息子と外出して、入院している夫に面会してから自宅に帰る利用者もいる。知人の面会時はゆっくり話ができるよう配慮したり、利用者の希望に応じて家族宛に手紙やはがきを書く支援をしている。認知症カフェに来た人と久しぶりに話ができるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 座席の配慮や入浴の曜日など気の合う方同士がなるべく一緒になるよう支援し共に支えあいの生活をしている。開設と同時に入所された方があり、毎日声掛け、助け合いができ馴染みの関係ができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後もその家族さんに来所していただくよう声掛けを行ったり、運営推進会のメンバーになってもらっている。ご近所に住んでいらっしゃる方には運動会やお祭り等に参加していただけるよう声掛けを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者一人一人の本当はどのように暮らしたいか、言葉にしにくい思いや考え方を汲取り把握するように努めている。また意思疎通の図りにくい方においては表情や動作から意向を汲取ったり家族や関係者からも協力を得ながら勧めています。 (外部評価) 普段の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、その把握に努めている。聞き取った情報は申し送りノートに記載し、職員は内容を確認した上で押印して全員で共有している。意思伝達が困難な利用者はしっかり観察し、返答しやすい声かけの工夫や表情、食欲、しぐさなどから判断し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査で情報を収集し今までの暮らしぶりを把握するように努めている。また、暮らしを共にする中で気づきや思考についての情報は少しずつ積み重ねておいて明らかになることも多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを理解し日々の生活の中での出来事や出来ないこと等観察しながら本人の可能性を決めつけないで柔軟な視点で把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の介護の積み重ねと本人、家族の思いや意向、気づきやアイデア等を反映し介護計画を作成している。モニタリングを毎日夜勤帯で行い見直しは半年ごとに行っており状態に変化があった場合は随時行っている。 (外部評価) 利用者と家族の思いや意向を確認し、介護計画を作成している。初回計画は1か月の仮目標を立てて実施し、担当者会議で見直しをしている。経過記録に介護計画を挟み、常に計画を意識しながらサービスの実施状況を記録している。担当職員は毎月モニタリングを行い、担当者会議に反映させている。家族の要望は面会時や電話を通して聞き取り、介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護記録によりその日勤務していなかった職員にも解るよう毎日の状況等の情報を共有できるようにしている。介護サービスに沿ってケアを実施し、毎評価を行い介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて受診など柔軟な支援を行っている。家族と受診結果の状況報告をして情報を共有している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 入居者が穏やかな暮らしが送れるよう地域の民生員、ボランティアの協力を得て交流を図っている。毎月地域のボランティアの方が来所して読み聞かせを行っていただいている。また、12月より幼稚園児が定期的に訪問してくれる計画もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医療機関にての継続した治療が受けれるようにご家族と相談しながら受診介助をしたり、家族が付き添ったりして通院治療を行っている。 (外部評価) 在宅時のかかりつけ医を継続して受診することができるが、通院が困難な利用者は、入居時に月3回往診する協力医に変更することが多くなっている。訪問看護ステーションと連携して、週1回の訪問看護と24時間緊急体制が整っており、日常の健康管理や相談ができるので安心感がある。専門科受診は家族の付き添いを基本としているが、場合により職員が同行することもある。受診の際には情報をメモで渡し、受診後の情報は関係者で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日利用者の身体状況において詳細な観察を行い健康管理や一般状態の変化に応じては主治医に気軽に相談できている。また、週一回訪問看護ステーションから看護師が健康管理に来てくれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期に退院できるよう病院関係者と情報交換を行い、退院前には管理者、責任者での病院関係者と話し合いをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り対応マニュアル、医療連携体制について説明し同意を得ている。病状の変化を報告、相談できる体制が確立されている。 (外部評価) 看取りについての指針を作成し、利用者や家族の要望にそって支援していく体制がある。現在までに1名の看取りを行った経験がある。転入所する利用者が多いことや元気な利用者が多いことから、看取りまで考えていない家族が多い現状である。今後も職員の勉強会を重ねて受け入れ体制を整え、要望にそって穏やかな最期を迎えられるよう支援に取り組んでいく方針である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域の消防署の協力を得て定期的に救命救急の訓練を受け、実践力を身につけている。消防署主催の研修を受け応急手当、搬送等の訓練も行った。事業所にAEDを設置しているため使用に関する訓練もおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防署の協力により年2回昼、夜を設定した避難訓練を行っている。グループホーム連絡会において防災対策について勉強会を行った。 (外部評価) 年2回消防署立会いの下、火災避難訓練を実施している。事業所の中と外の階段を使用して降下訓練を実施し、布タンカに変更する必要があるなど問題点を明らかにしている。また、定期的な消火設備の点検や緊急連絡網を作成し非常時に備えている。管理者は地域防災訓練に参加することや事業所が地域の避難場所になる可能性についてなど、地域との協力体制を検討中である。	年2回の防災訓練を行い降下訓練を実施しているが、職員全員ができる降下方法の検討や訓練を行うと共に、地域の避難経路や避難場所の確認を行って職員全員に周知徹底するなど、実効性のある訓練となるような取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者の人格や尊厳プライバシーについては十分に配慮をし、日常の介護時の声掛けに注意を払い、排泄や入浴などの介助においては、自尊心を傷つけないよう注意を払いながら行っている。 (外部評価) 排泄介助を行う時は羞恥心に配慮するよう努めている。夜間帯は難しいが、同性介助を希望する利用者には要望にそって実施できるよう努めている。管理者は利用者の情報を外に漏らさないなど、個人情報の保護について意志統一し守秘義務を徹底している。利用者一人ひとりの声かけに気を配り、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人の希望や好みを把握し表情や反応を感じとりながら日常生活の中で自己決定ができるような声掛け支援を行っている。誕生日には好きな食べ物をリクエストしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入所者一人一人のペースや体調に合わせてその日の状態等を確認し起床時間、食事の時間等をずらしたり個々のペースに合わせて過ごしていただけるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の生活習慣に合わせて朝の着替えや化粧品の利用などを見守り不自由なところはさりげなく声掛けしなおして頂いたり、毛染めなどによるおしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節ごとの旬の食材を使用し、季節感や食べなれた料理などで話題を提供したり楽しく食事をする工夫をしている。 月2回は利用者、職員が共に食卓を囲んで食事会を行ったり、外食の機会を持っている。 誕生日には好きな食べ物をリクエストしていただき喜ばれている。 (外部評価) 管理者が献立を立て、食材は週2回野菜や魚の配達を依頼し、肉類は買い物に行っている。利用者の好みを取り入れて季節の野菜をふんだんに使った料理は、医師から血糖値の安定に効果があると評価されている。利用者はごぼうのさがきをしたり、食器を拭くなど職員と一緒に準備や片付けを行っている。誕生日は利用者の好みを取り入れたメニューにし、月2回は食事会をして職員と利用者が一緒に食事をしたり、外食するなどして楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取量を観察、記録している。 水分量食事量の少ない方はご自分の急須と湯呑でお茶を入れ飲んでもらっている。 一人一人の状況を把握し、状態にあった食事形態で提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後声誘導している。 十分でないところは介助している。 また個人にあったさまざまなブラシを準備している。 義歯は夜間に洗浄剤消毒して清潔を心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを記録にて把握している。尿意のない人にはさりげなく声掛け誘導してトイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレを設置しいつでも行けるようにしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導してトイレで排泄できるよう支援している。排便がない時はトイレに座ってもらったり、牛乳を飲むなどして自然な排便を促している。歩行不安定で頻回にトイレに行く利用者は夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維の多い食材を献立に取り入れている。水分摂取はもとより日常生活での運動の声掛けを行い排便が3日以上ない場合は牛乳やヨーグルトを摂ってもらう工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日、時間を確認しできる限りご本人の意向を大切にしてお入浴していただいている。入浴は安全で本人の力が発揮できるような誘導に心掛け負担や羞恥心が最小限で済むよう支援している。	
			(外部評価) 浴槽は両端に移乗スペースがあり、シャワーキャリー、シャワーチェア、すべり止めマットを設置している。入浴は週2回を基本とし、希望で毎日入浴することもできる。皮膚掻痒のある利用者には綿手袋を使って石鹸の使用を少なくすることでかゆみが少なくなった。また殺菌作用のある入浴剤を入れることで皮膚がうるおい、浴槽にゆっくりつかることができる入浴を楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状態を一人一人把握し、日中は散歩や作業など取り入れ活動量を増やし夜間安眠できるよう促している。その日の体調や表情から疲れ具合をみて休息していただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の内服状態がわかるよう説明書を個別でファイルして共有している。内服薬の変更時は申し送りノートにて共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の調理や洗濯物干し、また歩けない方には洗濯物たたみ等一人一人得意なことをしていただいている。ベランダにプランターを置き少しだが花や野菜を育てたりもしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望に沿ってできるだけ散歩や買い物、日光浴などを行い戸外にて気分転換を図り生活に楽しみが持てるよう支援している。季節ごとの花や紅葉見物に出かけたりして気分転換を図り生活に楽しみを持っていただいている。 (外部評価) 天気の良い日は事業所の周りを散歩し、近所の人が声をかけてくれるなど挨拶を交わしている。不穏になると、一緒に神社にお参りすることで落ち着く利用者もいる。また、行事委員会の担当職員は内子や肱川、久万高原町の道の駅へドライブを計画し、普段行けない場所にも出かけて楽しむことができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向によりお金を所持している方もいる。また家族よりお金を預かっている方も買い物時一緒に準備して支払いができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたいと訴えがあるときは対応し手紙や年賀状のやり取りもできるよう支援している。自分からかけられない方には電話の代行をしたり、個人の有する能力に応じた対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室、ホールに湿度・温度計を設置、冬場は加湿器で居心地良く過ごせるようにしている。ホールには空気清浄器も設置し、清潔な空間をこころがけている。ホール天窓の下は日当たりもよく冬場は憩いの場となっている。夏場は暑いのですだれ等で工夫している。毎月壁紙を作成し季節感を出している。 (外部評価) リビングはオープンキッチンで、椅子席、ソファ席、畳コーナーを設け、木目調で落ち着いた雰囲気があり利用者は好みの場所で穏やかに過ごしている。温度計や湿度計、加湿器、空気清浄器を設置し、光触媒を使った消臭器を設置する等環境整備に配慮している。また、利用者と一緒に役割分担して掃除を行い、清潔感あふれる環境となっている。壁には利用者の作品やもみじの貼り絵、ぬり絵を掲示し季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの窓際は日当たりがよく思い思い日向ぼっこや気の合った入所者さん同士が会話を楽しめたりと一人一人の居場所ができている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使い慣れている布団や家具等持ってきていただき居心地の良い居場所づくりを心掛けている。また、亡くなられた家族の位牌や写真など家族さんに相談し持ってきてもらい毎朝お茶をお供えしている。 (外部評価) 居室の名札は高さを変えて見やすいように配慮されており、電動ベッドとエアコン、タンス、洗面所が備え付けられている。利用者は使い慣れたカーペットや机、テレビ、籐椅子等を持ち込み、家族の写真や絵手紙、孫が書いた似顔絵、人気演歌歌手のポスターなどを飾ったり、位牌を置いて職員と一緒に毎日本水を供えるなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口に名札を背の高さに合わせてつけ、また字の読めない方の居室には飾りやのれん等目印を付けるなどの工夫をしている。廊下、トイレ、浴室には必要な手すりが設置され安全で自立した生活が送れるようにしている。	